

このまちの100年

「明石」

明石は山陽道などが通り、南には海峡を挟んで淡路島もある古来よりの陸海の交通の要衝。江戸初期、西国の抑えとして明石城が築城されると周辺は城下町が整備され、特に魚の棚は明石海峡の魚介を扱う市場として発展しました。



昭和8年

明石市には東経135度の子午線が通る。神明国道にも子午線標柱が建てられていた



昭和10年頃

和船が碇泊している明石港。奥に旧波門崎燈籠堂(明石港旧灯台)が見える



昭和10年頃

中崎遊園地にあった錦江ホテル。跡地には現在、明石市立勤労福祉会館が建っている



昭和10年頃

明石城から見た明石市街。明石駅付近に列車が見える



昭和10年頃

明石公園にあったプール。円形の洒落たデザインの施設だった



昭和40年頃

明石駅から南へ延びる明石銀座商店街。昭和24年の駅前大火のあと幅30mの都市計画街路が整備され、両側に商店街が設けられた

上空からみた明石エリア



昭和22年



昭和50年



平成21年

現在地
魚の棚 明石城 坤櫓 明石駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロマチ